

佐賀県

みんなで読もう オススメ本



このコーナーでは、
県内の著名人がおすすめする児童書の魅力を、
直筆の推薦文とともに紹介します。



『いのちのまつり～マチヌグスージ～』
自分がなんでここに居ることが出来るのか
命が生まれてつながるこれが
「秘密のかけ」で感じられる絵本
「命のボタン」「命のつながり」「いのちのまつり」



『いのちのまつり』
作/草場 一壽
絵/平安座 資尚
サンマーク出版

「ぼうやにいのちをくれた人は誰ね～?」「それは…お父さんとお母さん?」「そうだねえ。いのちをくれた人をご先祖さまと言うんだよ」「ねえ、おばあさん、ぼくのご先祖さまって何人いるの?」コウちゃんは、指をおって数えてみることにしました。すると…。あっと驚く仕掛けで「いのち」の繋がりと尊さを伝える感動の絵本。

『スイミー』

小学生の時に教科書がき、かけで読んで一冊
ひとりぼっちになってはじめて気づいた
「広くてきれいな海の世界」
新しい仲間と出会い、自由を奪って生きるために!
『スイミー理論』

『スイミー』
作/レオ=レオニ 訳/谷川 俊太郎 好学社
小さな赤い魚の兄弟たちの中、一匹だけ真っ黒のスイミー。ある日、兄弟たちが大きな魚にみな食べられてしまい、ひとりぼっちに…。悲しみの中、海で色々な生き物と出会い元気を取り戻していきます。そして、兄弟たちそっくりの赤い魚の群れをみつけて…。



『えんとつ町のプペル』

お笑い芸人・西野 さんの 絵本
美しい絵と不思議な国の童話
絵本を創るために仲間を募り「志金」を集める
クラウドファンディングで創られました!
『煙と雲の向こう側にある
星(希望)を信じて動き出せ!』



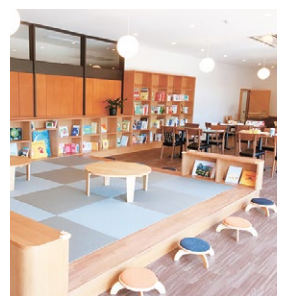
『えんとつ町のプペル』
著/にしのおきひろ 幻冬舎
煙突だらけの“えんとつ町”では、街中のそこかしこから煙が上がっていて、空は黒い煙に満ちている。親を亡くした少年ルビッチをはじめ、住民たちは青い空も、輝く星も知らなかった。ハロウィンの夜、そんなルビッチのもとにゴミ人間のプペルが姿を現した。

山田健一郎さんってどんな人?

市民や企業の皆様からの寄付を市民活動団体やCSO(市民社会組織)などに助成し、地域や社会の課題解決や活性化に取り組む市民立の財団「佐賀未来創造基金」を2013年に設立しました。豊かで次世代に残せる佐賀県の未来を創ることを目指して活動しています。



佐賀県立図書館「ころざしの森」では、このコーナーで紹介した児童書と推薦文を展示しています!



※「ころざしの森」の「森」の字は、3つの本で構成した創作漢字です。